

## 九州大学病院

研修医 大崎 佑一郎 2016年5月

初めまして、九州大学病院研修医2年目の大崎 佑一郎と申します。2016年5月に地域医療研修として、一か月間、出水総合医療センターを中心に地域医療研修をさせて頂きました。

私は宮崎県延岡市の出身であり、将来は地元での医療に従事したいと思い、似たような土地柄の出水での地域医療研修を希望しました。私が小学校4年生のころ、父親の転勤の都合で鹿児島市に住んでいた際に、ツルを見ることができるところがあると聞き、母に連れられて、はじめて出水を訪れました。研修時期が5月ということで再びツルをみることはできませんでしたが、それから、約18年後にこうして、また出水で研修をさせていただくことができましたことを大変うれしく思います。

研修内容としましては、院外研修として、野田診療所での診察業務、高尾野診療所での診察業務、上場診療所への往診、出水保健所での検診等に從事させて頂きました。

院内研修では、出水総合医療センターで小児科を中心に研修させて頂きました。また、救急外来での救急車対応や多職種連携ということで医療安全、地域医療連携、リハビリテーション、臨床検査、臨床工学、看護部などの様々な部署でお世話になりました。

診療所では、外来診察を行う機会を頂き、問診や身体診察を中心に勉強させて頂きました。また、心エコー、頸部エコー、腹部エコー、内視鏡検査、外傷の創処置等を勉強させて頂きました。先生方は患者さまとの長年の関係を築いておられたので、診察がスムーズにいったように思えました。しかし、私は、初対面の患者さんとの接し方からでした。多くの患者様方はここ数年、研修医が診察に来ていることを知っておられたので、問診や診察に協力して頂き、大変うれしかったです。普段は外来診療を経験する機会がないので、大変勉強になりました。また、出水という土地柄でしょうか、農作業に従事されている方、お酒を飲まれている方が大変多かったように思います。私も、一か月間の研修期間中に何度もお酒を飲む機会がありましたが、飲酒量の多さに驚きました。両診療所の先生方の指導に従って、生活されている方々をみて、両診療所の重要性に気づかされました。上場診療所への往診業務は、自分の父親が僻地医療に従事していたこともあり、非常に貴重な体験となりました。二週間に一度しかない診察日を待っていらっしゃる方々がいることに気づかされました。こうした方々をどのようにサポートしていくか、今後の取り組み方を考えさせられました。

出水保健センターでは、三歳児検診などの業務に参加させて頂きました。出水市での育児サポートへの取り組みを勉強させて頂きました。

院内研修では、小児科を中心に研修させて頂きました。小児特有の疾患を勉強させて頂きました。成人の方とは違った見方で診療しなければならないことを実感しました。また、多職種連携ということで、出水総合医療センターを支える様々な職種の方々の仕事を体験させて頂きました。病院は色々な方々の仕事があって成り立っていることを改めて実感しました。

最後になりましたが、ご多忙の中ご指導いただいた先生方、コメディカルの方々、スタッフの方々、診察させていただいた患者の皆様、誠にありがとうございました。この経験を生かして、地元での診療に生かせるように頑張っていきたいとと思います。